



明治39年当時の拝殿



現在の社殿

「信濃」——厚別中央地域

今

信濃神社は、厚別区、白石区川下地域の総鎮守として厚別中央四の三に鎮座しています。厚別停車場通に面した境内には開拓当時をしのぶことができる記念碑などがあり、木々に囲まれた参道の奥に社殿がたたずんで厳かな雰囲気になっています。毎年九月の例大祭や七五三などの行事で地元の方々に親しまれ、崇敬を集めています。また、神社の近隣の小・中学校や交番、児童会館、橋、公園などにも「信濃」に関する名称が多く使われています。

昔

信濃神社の創祀は、明治十六年ころになります。現在のJR厚別駅付近に入植した長野県出身者たちが、三里川と厚別川の堤防近くの線路沿いの地に小さな祠を建て建御名方富命(文武の神・雨水の神)を祭つたのが始まりでした。厚別開拓の祖といわれる河西由造らは、長野県の各地から当地に入植した人々が心を合わせて開拓に励むため、故郷信濃(長野県の旧国名)で最も崇敬されている諏訪大社の御分霊を奉遷して地域の精神の拠所としたのです。しかしこの地が厚別川のはらんなどで流されそうに

なつたため、現在地に移転、明治三十年に本殿が落成しました。その後、昭和五十三年に建て替えられ現在に至っています(旧社殿は北海道開拓の村に保存)。このように大切に守られた「信州(信濃の通称)人」としての団結心、独立心が、その後の地域社会での活動を支えたのでしよう。

信濃神社御鎮座百年記念碑

碑文から

明治三十年、長野県諏訪大社より出身者河西由造等先人によって、開拓・守神の心の拠所として、厚別の地に奉遷されてよりこのかた、御鎮座百年を迎えた。一世に亘り、祭祀の厳修、神社の護持に、神明奉仕の至誠を奉げて来た、先達の方古不易として、ゆるぎない精神・伝統の継承を担うべく、この佳節にあたり、有志・氏子一同参集所建設と併せ、記念の碑を建立する。

平成十年九月吉日

「今」と「昔」を重ね合わせると、

どんな「風景」が見えますか？

「旧出納邸・雪印バター誕生の地」

——厚別南地域

今

上野幌一の五、雪印種苗株式会社敷地内には、二つの貴重な文化財があります。一つは、さつぱろ・ふるさと文化百選にも選ばれている「旧出納邸」です。もう一つは、「雪印バター誕生の記念館」です。

「旧出納邸」は、この地で牧場を経営していた出納陽一氏の邸宅として、大正十四年に建てられました。

同氏が酪農経営を学ぶためにデンマークに留学していたとき目にした富豪の家がモデルといわれています。厚別区説明板より抜粋

旧出納邸のマンサード屋根は、大正時代に流行した札幌の代表的な住宅建築様式でした。

「雪印バター誕生の記念館」は雪印乳業の前身「北海道製酪販売組合」が、大正十四年にここにあった宇納農場の製酪所を借り受けて民間初のバター製造を開始したことを記念して設けたものです。

厚別区説明板より抜粋

厚別駅からの原料運搬は、悪路のため馬車で往復四時間もかかったそうです。昭和五十六年に当時の製酪所を復元し、現在の記念館として保存しています。両施設とも現在は一般公開はしていません。

あつてつ今昔



旧出納邸



雪印バター誕生の記念館